

ご退職に寄せて

橋 本 隆 司*

令和2年度末をもって、4名の教育センターの先生がご退職されます。その中から、後藤和雄先生、グラシエラ・クラビオト先生、シャーリー・リーン先生から本号にご寄稿いただくことになりました。詳細についてはそれぞれの先生のお原稿をご覧くださいことにしまして、ここでは、私から先生と教育センターの関わりを、個人的な経験を交えてご紹介したいと思います。

まずは私の専門分野でもある数学をご専門にされている後藤先生についてお話したいと思います。私が工学部から教育センターに移ってきた際には、先生は既に所属されていて、教育センターの前身である大学教育総合センター設立当初からのメンバーです。先生のご専門は数学の中で解析的整数論と呼ばれる分野です。と、言われてもピンとくる方は少ないかもしれません（かくいう私もこの分野についての知識は極めて少ないです）が、例えば二十一世紀に残された未解決予想としてリーマン予想と呼ばれるものがありますが、これは解析的整数論の分野に属します。教育に関しては（これはセンターに所属する数学関係の教員に共通することですが）一年次生が学ぶ微分積分学に関する授業を主に担当されてきました。

次に、グラシエラ先生（正式にはクラビオト先生とお呼びするのですが、親しみを込めてこのように呼ばせていただきます）についてお話したいと思います。先生は当初、国際交流センターにおられました。平成29年に教育支援・国際交流推進機構の改組に伴い、教育センターに移ってこられました。先生のご専門は経済学、中でもゲーム理論に関連することだということを、忘年会の席でお聞きして驚いたことを今でも鮮明に覚えています。さらに、日本にいられた理由というのが、高名な経済学者である宇澤弘文さんの理論をもっと勉強するためだったということをお聞きして二度びっくりしたことも忘れられません。というのも、宇澤先生は米子市出身ということ、また宇澤先生御子息の宇澤達さんも数学者（名古屋大学教授）で、私の現在の研究テーマは“リー群の表現論における運動量写像”なのですが、元はと言えば、宇澤達さんの研究がそのきっかけと言えるからです。教育に関しては、主にスペイン語の授業、また英語の授業も一部担当されてきました。

*鳥取大学教育支援・国際交流推進機構教育センター長・教授

最後になりましたが、シャーリー先生（リーン先生とお呼びするのが正式なのでしょうが、やはり親しみを込めてこう呼ばせてください）についてお話しします。先生が教育センターに来られたのは、私がこちらに来たのとちょうど同じ時期、平成23年4月でした。先生には家族共々お世話になりました。先生は大学での講義の他に附属中学での授業も担当されてきたので、ちょうど先生がおられる時期に娘が附属中学に通っていたこともあり、娘が英語の授業でお世話になったのはもちろん、運動会や何かの折に、私だけでなく家内も交えて先生と親しくお話する機会が何回かあったことが思い出されます。

以上、とりとめもないことがらを拙文にて綴ってきましたがご容赦願います。来年度には教育センターの改組が予定されており、当センターも新しい門出を迎えます。退職を迎え新たなる出発をされる先生方のご健康と益々のご活躍を祈念して筆を擱きたいと思います。